



平成27年10月15日発行（毎年7月・10月・12月・3月発行）

秋

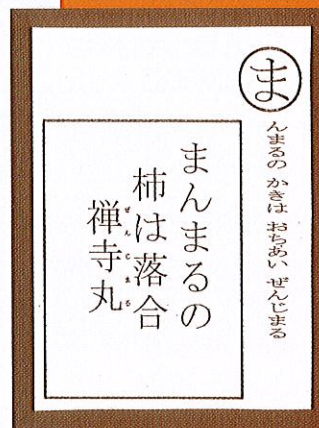
第130号

おちあい

責任者 坂田 英夫 企画・編集 落合第二地域センター管理運営委員会 広報部
〒161-0032 新宿区中落合4丁目17番13号 Tel. 3951-9941 Fax. 3951-9310

禅寺丸柿Map 〈西落合編〉

- 禅師丸柿と確認済
- 禅師丸柿かもしれない柿



「落合カルタ」より

※西落合には他にも禅師丸柿があると思われます。（調査：篠田邦子）地図にある通り名は、新宿区により平成22年に決定された道路通称名です。また中落合・中井・上落合の禅師丸柿マップを作ります。

情報を広報部までお寄せ下さい。

※禅師丸柿通信がP.5にあります。

第九回 落合第二地域 センターまつり開催!

11月15日(日) 10:00~15:30に開催されます
体験、舞台発表が主体のおまつりです

お子様には先着200名にお楽しみプレゼント!

ステージ

(順不同)

- | | | | |
|------------------------------|-------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|
| ▶ 葛ヶ谷クラブ
カラオケ | ▶ スミレ会
カラオケ | ▶ ラウレア
フラダンス | ▶ キラキラフラガールズ
フラダンス |
| ▶ 西落合交友会
カラオケ | ▶ 楽踊会
踊り | ▶ いずみコーラス
コーラス | ▶ 峰丈流護身武道を
学ぶ会 |
| ▶ 空手道修剛会
スポーツ少年団
空手道演武 | ▶ 落合吟友会
詩吟 | ▶ 新宿区吹奏楽団
クラリネットアンサンブル | ▶ 空手演武 |
| ▶ フラサークル レファ
フラダンス | ▶ プチ・バレリーヌ
子どものバレエ発表 | ▶ 指笛:Golden Whistlers
指笛演奏 | ▶ お気楽長屋in落合
古典落語 |
| ▶ 合気道 誠心会
合気道演武 | ▶ 西落合太極拳 富鳴
太極拳 | ▶ 剣道 新宿道場
演武 | ▶ デューク グリーン
サウンド
ジャズバンド演奏 |
| ▶ わかやぎ合唱会
コーラス | ▶ ハミングMom
合唱 | ▶ 新宿チアケース
エメラルズ
チアリーディングの発表 | ▶ フラサークル ホロホロ
フラダンス |

模擬店

- ▶ 西落合町会
射的、いなり、のり巻きセット、
みたらし団子、かき氷の販売
- ▶ 中落合三丁目辻町会
ポップコーン
- ▶ 上落合三丁目町会
フランクフルト販売
- ▶ 落合第二地区
青少年育成委員会
焼きそば、駄菓子、コロッ
ケパン、コーヒー、ジュ
ース、みそおでん
- ▶ けやき荘 レクの会
“けやきブランド”販売

体験コーナー

- ▶ コミュニティ
「おちあいあれこれ」
漢字で遊ぶ
- ▶ 落合第二地区協議会
旬のカードゲーム
- ▶ 落合三世代交流を育てる会
カラーバンドで作る「オリジ
ナルプレスレット」
- ▶ 新宿区更生保護女性会
クリスマスカード作り
- ▶ 新婦人新宿支部
けやき班絵手紙
絵手紙展示、絵手紙体験
- ▶ 公益社団法人 新宿法人会
小中学生向け税金クイズ
先着400名
- ▶ 戸塚警察署 ふれあい連絡
協議会
ピーポ君の着ぐるみ
- ▶ スリック
木のペンダント



内容が変更される場合がありますので、ご了承下さい。

※協力：落合親和町会／中井町会／上落合中央町会／各校PTA

落合第二 地域センター

行事紹介

★七タコンサート

津軽三味線

七月四日(土)、恒例の七タコンサ
トが一六〇名の参加で開催されました。
今回は新宿区出身の沢田勝邦氏と、
そのお弟子さんの沢田邦羽さん(青森
県八戸市出身)の二人による、津軽三



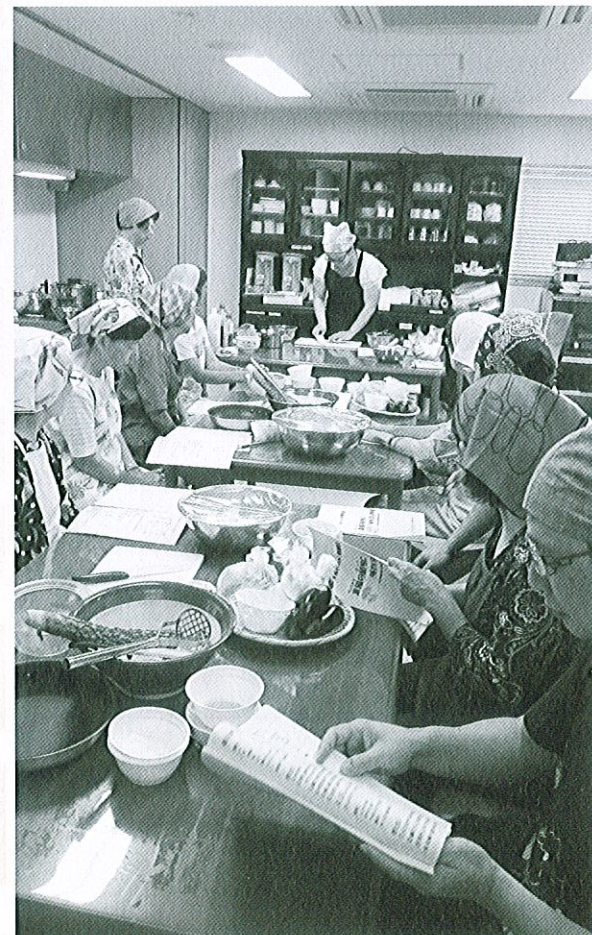
その後、津軽甚句・ソーラ
ン節・真室川音頭・花笠音頭・
津軽よされ節と続き、最後に
アンコールにも応えてもらっ
た、あつという間の一時間と
なりました。

味線の演奏と歌とトークショーでした。
りんご節・津軽じょんから節・十三
の砂山・津軽あいや節と続いた処でク
イズが出ました。
問題：津軽三味線の皮は何の皮を
使っているのでしょうか?
答え：①猫 ②犬 ③パンダ ④面
の皮のどれか?
正解は当日来場された方にご
確認ください。

★料理教室 九月イベント

重陽の節句に味わいたい料理

秋の長雨が晴れた九月十二日(土)に、午前
午後と十人ずつに別れて、区内給食栄養士の小川
真弓さんを講師に迎えて、開催されました。
今回の料理は、旧暦九月九日(十月二十一日)の、
秋の収穫を喜び、無病息災や長寿を祈る、重陽(菊)
の節句に味わいたい、菊・栗・茄子を使った四品、
菊花寿し・えびしんじょうのすまし汁・なすの梅
肉和え・さつまいもと栗の茶巾しほりです。
五人のグループで分担しながら、下ごしらえは
出来ていたとはいえ、短時間に、見た目もきれいな
出来栄に、喜びながら楽しく、完成品を味わ
うことができました。



◆その生涯でたった一軒の家 作家になった芙美子と千代

林芙美子と宇野千代は共に山口県出身、千代のほうが六歳上のほぼ同世代の作家です。それぞれの自叙伝は『放浪記』と『生きて行く私』。この二冊を比較しながら同時に読むと、大正・昭和の東京を感じることが出来ます。二人は落合文士村、馬込文士村の人としても知られ、関東大震災の東京を歩いているからです。

芙美子は尾道（おのみち）高女を卒業後、明大商科の婚約者を頼って上京、雑司ヶ谷に住みます。千代は岩国（いわくに）高女を出て代用教員をしたのち、内縁の夫と京都に住みますが、夫の進学に伴って東京帝大近くの小石川に落ち着きます。

上京してくるというのは、まず家賃がかかるのです。特に芙美子は両親も商人で貧しく、家を構えず、私は宿命的に放浪者であると書いています。親に頼れないどころか仕送りもする優しさや向上心がありながら、女中、カフェの女給、セルロイド工場の工員などを転々とし金を工面する日々。文学への情熱を秘めたまま、実際のところは原稿料が入るものなら、生活に追われて詩や童話を書く状況だったと思われます。二十

一歳で婚約を解消されてしまうとこの苦しい生活はますます長引き、雑記帳に書きつけた日記には目を覆いたい苦しみばかりなく続きます。同時に大正十一・十五年頃の東京の底辺が描かれてもいて、一つの価値となっています。せっかく待遇のいい事務員に採用されても合わずに辞めたりしており、二十五の女というフレイズが散見されて終わっているのです。二十代半ばまでは不遇から抜けられずにいたことがわかります。

千代も女給や雑誌のモデルをして稼ぎますが、下層社会に染まらず早めに脱却しています。なかでも転機となったのは、本郷三丁目の西洋料理店・燕楽軒（えんらくけん）でのこと。十八日間しか居

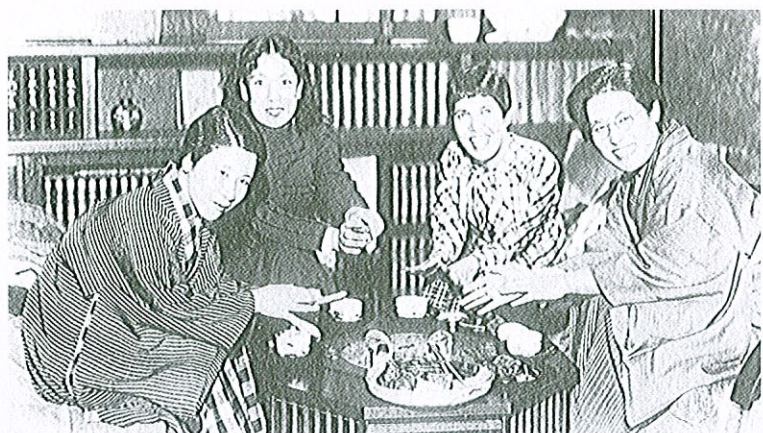
なかったにもかかわらず、美人すぎるウエイトレスがいるとばかりに文士たちが次々と店にきました。中央公論社の編集長だった瀧田樗陰（たきたちよゐん）は毎日昼食にやって来ては五十銭玉のチップをくれたそうで、そのうち千代は新聞の懸賞小説に応募すると一位で入選、これに力を得て書いた原稿を樗陰に送ります。作品は掲載され、二十四、五歳で一躍流行作家となったのです。

毎日チップだけで五十銭もらった千代に比べ、芙美子は日給七十五銭の工場勤め、ひたすら書くことで精神の安定をはかりながら、これはと思う部分を雑記帳から抜き出して、二十五歳のとき『女人芸術』に発表します。掲載されると人々の共感を得て評判となり、昭和五年に単行本が出るや大ベストセラーになるのです。

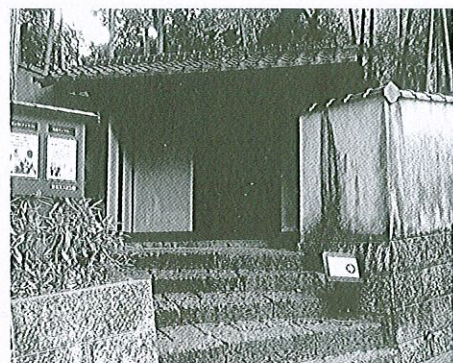
戦後『浮雲』や『晩菊』のような作品も残した芙美子ですが、最も有名な『放浪記』は、劇作家・菊田一夫によって舞台化され、森光子主演で日本演劇界の最高峰と言われます。今秋、仲間由紀恵の主演で再び観られるようになります。

それにしても、生涯で十三軒の家を建てているのに、現在はその生家が記念館となっている千代一郷里の岩国の家が宇野千代を育んだということでしょう。

一方、生家を見たこともない流れる者としての人生を四十七歳で終えた林芙美子が建てた唯一の家、それが中井の四の坂のふもとにある一軒の家です。「私は東京に来て家を建てた！」。静けさの向こうに、そんな声を聴いてみてほしいものです。（中落合在住 馬場尚子）



左より林芙美子、宇野千代、吉屋信子、佐多稲子 昭和10年「林芙美子—新宿に生きた女」(「新宿歴史博物館特別展図録」)



四の坂は階段。中井から撮影した芙美子の家は堂々たる門構えの日本家屋だ



千代が住んだ港区南青山3丁目の宇野ハウス。3階が女性限定のシェアハウスになっている

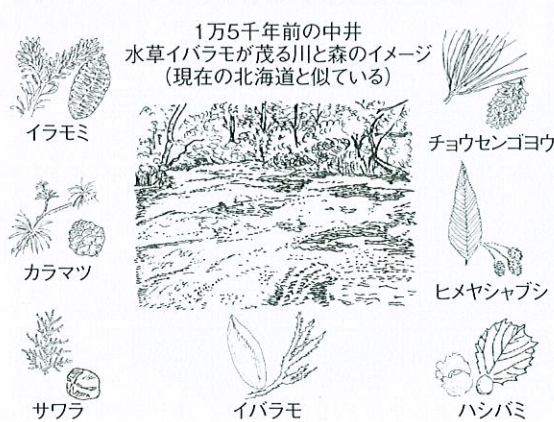
落合、十万年タイムトラベル 第二回 三万年前〜二万年前 江古田植物化石層

それまで長く続いてきた氷河期の中でも最後にもっとも寒冷な気候がやってきました。二万年前頃のこと、最終最大氷期と呼ばれます。その証拠が、昭和十二年、早稲田大学の助手であった直良信夫博士によって発見された江古田植物化石層です。清らかな冷たい水辺で分解されずに寒冷地植物が化石になったものが、川沿いの低地で発掘されたものです。妙正寺川NO.1遺跡発掘の三年後NO.2貯水池にあたる松ヶ丘遺跡には見事な江古田植物化石層がみつかりました。標本が中野区立歴史民俗資料館で展示されています。

中野区松ヶ丘に住んでいた直良信夫博士が、昭和十一年、江古田川東橋あたりを歩いているときに、水道管工事現場に遭遇、掘り出された土の中にたくさん植物化石が含まれているのを発見。それを持ち帰って調べてみると、カラマツ、イラモミ、チョウセンゴヨウといった寒冷



直良信夫博士 (1902-85)
([「中野区立歴史民俗資料館常設展示図録」])



地にしか生えない針葉樹が確認されました。これは、気温が現在よりも十度ぐらい低い寒冷な気候であり、日本にも氷河期があったことを証明したものでした。直良博士はその後妙正寺川沿いに江古田植物化石層の調査を行うなか、昭和二十六年春、西武新宿線中井駅の北側の工事現場で、カラマツの毬果のほか「サワラ」や「ヒメヤバシ」や「ハシバミ」、きれいでとても冷たい水流にすむ「イバラモ」の種子も見つけました。（戸津和子）

※本稿に当たって、中野区立歴史民俗資料館榎木志野氏にお話をうかがいました。次回は一万年〜三千年前です。

◆禪寺丸柿通信

建保二年（一一二四）に禪寺丸柿が発見されたという、川崎市の王禪寺へ行って来ました。王禪寺の中興の祖、等海上人は寺院再建の用材捜索中に、山中に自生している「禪寺丸柿」を発見し、近隣の農家にも栽培を勧めたとされています。

明治二十二年（一八八九）の町村制度実施により、周辺の各村が合併した際、「柿が生れた村」ということで村名を柿生村としました。が、昭和十四年（一九三九）に川崎市に編入され、柿生村は無くなりました。今は、小田急線の駅名として残っています。（写真①）

駅を出ると通りには、写真②の幟（ぼり）がありました。着いた王禪寺は、さすが「東の高野山」とも呼ばれたとおり、深山幽谷の雰囲気のある処でした。明治末から昭和初期が最盛期で、大正十年（一九二一）には九百三十八トンが生産されました。しかし、新品種の富有などが市場に出回ると、新品種の方が種も少なく、実が大きいことなどの理由から、昭和四十年代の後半ごろから、市場から姿を消してしまっただけです。平成七年（一九九五）地元の農家など約百七十軒で、「柿生禪寺丸柿保存会」が発足し、保存栽培に

乗り出します。

平成十二年（二〇〇〇）十月禪寺丸発祥記念祭を開催し、同寺境内の原本（樹齢約四百五十年伝承）の前に記念碑が建立されました。（写真③）

平成十九年（二〇〇七）川崎市麻生区内の七本が文化庁の登録記念物として指定されました。（王禪寺）川崎市麻生区王禪寺九四〇にある、真言宗豊山派の寺院。星宿山蓮華蔵院王禪寺と号する。

江戸幕府より三十石の朱印を与えられ、歴代の将軍（家康を始め、後の十三人の将軍）の位牌を奉り、将軍家より葵の御紋の使用を与えられた。（小野田正治）



落合にアトリエの残る彫刻家… 「武井直也の軌跡展」開催

十月十七日（土）〜
十二月三十日（月）

市立岡谷美術考古館 長野県岡谷市中央町一〇九一八
TEL&FAX 026612215854（詳細はお問合せください）

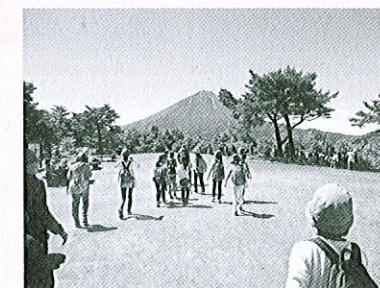
西 湖 夏 季 施 設



七月三十一日
(火) 二十三日
(木) の二泊三日で夏季施設「西湖」に行ってきました。

一日目はカヌー体験やニジマスのつかみ取り体験を行いました。ニジマスはつかみ取りをするだけでなく、さばく体験もしました。初めは怖がっていた子どもたちも、キャンプ場の方に教えてもらいながら上手にさばくことができたようになりまし。これらの体験を通して「命をいただく」というこ

とを実感したようです。二日目はハイキング。山を登りきった後に三湖台から見た富士山に思わず歓声が上がりまし。夕飯は二日も火おこしから行う自炊です。飯盒で炊いたご飯や自分たちで作ったカレーは格別においしかったです。天気にも恵まれ、キャンプファイヤーやきもだめしなど、すべての行程を無事に終えることができた。三日間の体



験を通して六年生は班をリードする姿、五年生は班の一員として協力しようとする姿が見られ、成長を感じまし。五年生担任 尾間 宏美



今年度の夏季施設は山梨県西湖に二泊三日で行きました。西湖での三日間はキャンプ場

での生活です。自然の中に身を置き(昼間は暑い、虫もいます!)テレビもゲームもなく食事自分たちで火を起こして作るというワイルドな西湖での三日間を五・六年生が協力して楽しみながら過ごしまし。特に印象的だったのが一日目のカヤック体験です。カヤックへの乗り降

り、パドル操作の仕方などをインストラクターの先生に教えてもらって、いざ湖へ! 最初は二人の息が合わずに、前に進めなかつたり、自分の思う方向に進めなかつたりと悪戦苦闘していましたが、さすが飲み込みの早い子供たち! あつという間に湖畔からはるか遠くまで進んでいきまし。西湖の美しい湖面を間近に感じることで、また新宿では体験できないことを十分に体験し、大満足



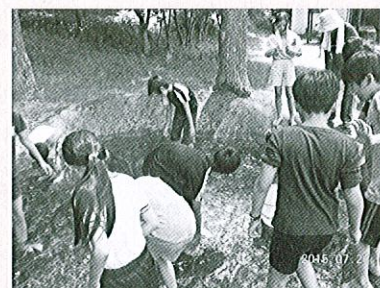
のカヤック体験となりました。五・六年生の友情の絆がより深まった「西湖での最高!」の三日間となりました。六年生担任 川上 るり子



休み中の七月二十五日(土) 二十七日(月) の二泊三日間で、五・六年生で西湖夏季施設が行われまし。河口湖ワイ

ルドセンターでは森林や洞窟を散策したりクラフト体験でボードコールを作ったりまし。また、キャンプ場では自分たちで火を起こし、バーベキューや飯盒炊きでカレーライスを作りました。班のみんなで協力して食事の準備をし、おいしくできた喜びを分かち合うことが

できました。また、自分たちで料理を作る大変さを体験し、毎日の料理をしてくださる家の人の感謝の気持ちも深まったことだろうと思います。その他にも、キャンプファイヤー、ナイトハイク、牧場体験など予定していた活動をすべて行うことができました。活動班やバングローで五・六年生が緒に行動し、高学年としての絆を強めることができました。この夏季施設で学ん



だことを、これからの生活の中でもぜひ役立てて欲しいと思っています。五年生担任 平尾 雅彦



ユネスコの「無形文化遺産」に登録された「和食」は、栄養バランスにとどまらず、家族団欒といった食事のとり方、日本人が森羅万象を敬い、大切にしてきた思いを含めて評価されました。こうした先人の思いを学ぶことで和食に誇りを持ち、食生活を豊かにしてほしいと願い、一学年で授業を実施しました。

「大切にしたいのかたち」と題した授業は、食器のプロ、三信化工株式会社、の海老原誠治氏が講師。食器の扱い方だけでなく、食器そのものの意味に迫りました。「器」の模様が何に見えるか、班ごとに繰り返し広げたワークシヨップでは、思いをつくまに意見を出し合う中で、四季のうつろいに姿を変える水や自然現象への畏

敬、自然や水を活用した生活への感謝、物に宿る付喪神への畏怖とそこから生まれた「もったいない」や「掛け替えのない」という物を大切にすること、日本人が食器の模様に込めた思いが、心に染みこく様子がうかがえまし。こうした思いの詰まった器で彩られる食卓には、食事を共にする他者へのおもてなしの心が加わり、「しつらい」や「ご馳走」といった行為を生んだことも知りました。学びの後、お盆やお碗のそろった和食器で給食を「しつらえ」、いただきましたが、味も雰囲気も格別。楽しい会食になりました。こうした学びを生かして中学生であるお子さんが食事の準備を大事にし、家族との食事を楽しんでくれたら嬉しいです。主幹教諭・家庭科 宇野 頼子



行 事 予 定

赤土祭 10月24日(土)
道徳地区公開講座 11月7日(土)



落 二 中

総合防災訓練 10月10日(土) 9:00~
セーフティー教室 10月19日(月) 13:40~15:30
学芸会 11月14日(土) 8:50~
伝統芸能鑑賞教室 11月19日(木) 10:45~

落 六 小

学芸会 11月7日(土)

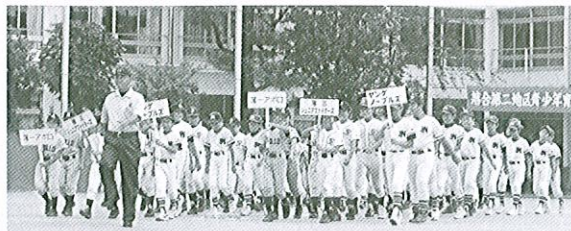


落 五 小

学芸会 11月14日(土)



落 三 小



高学年の部 決勝

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	合計
落一アポロ	2	0	2	0	0	1	1	6
落三ジュニアファイターズ	0	0	0	0	0	0	1	1

低学年の部 決勝

チーム名	1	2	3	4	5	6	合計
ヤングノーブルズ	0	6	0	2	0	1	9
落三ジュニアファイターズ	0	0	0	0	0	0	0

★落合第二地区青少年育成委員会
少年野球大会 結果報告



八月二十三日（日）、落合第二地区青少年育成委員会主催の少年野球大会が落合第二中学校で開催されました。

◆高学年の部

優勝 落一アポロ

準優勝 落三ジュニアファイターズ

◆低学年の部

優勝 ヤングノーブルズ

準優勝 落三ジュニアファイターズ

で挨拶 落合保健センター

所長 松浦美紀
まつうら みき



四月に着任いたしました。地域の皆様に親しんでいただける身近な健康づくりの拠点となるように職員と共に取り組んでいます。よろしくお願いいたします。保健センターには、保健師・栄養士・歯科衛生士がおりますので、是非様々な機会にお声かけください。

第三十九回あゆみ祭

今年も恒例の「あゆみ祭」を開催します。お誘いあわせの上、ぜひご来場ください。

◆日時 十一月八日（日）雨天開催

午前十時三十分～午後二時三十分

（開会式は十時二十分から）

◆会場 新宿区立あゆみの家

電話（3953）1230

◆内容

新宿区西落合一～三十一丁目模擬店、作品展示販売、福祉体験、バザー、子供広場、ステージ等

※駐車場はありません。

★落合第二地区協議会

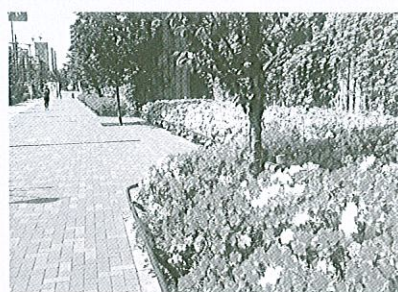
「素敵なまち」の写真展

写真大募集！



落合第二地区で見つけた、美しい街並みや緑豊かな風景など「素敵なまち」の写真を募集します。ご応募いただいた写真は、落合第二地域センター一階ロビーで展示する（平成二十八年三月頃）ほか、区ホームページなどにも掲載する予定です。

作品の募集は、平成二十八年二月頃の予定です（詳しくは掲示板などでお知らせします）。たくさんのご応募お待ちしております。



昨年度の応募作品（一例）

◆問合せ先

落合第二特別出張所
電話（3951）9177